

	牟婁 <sup>紀</sup>	武漏 <sup>積</sup>	牟漏 <sup>積</sup>
管七		牟婁 <sup>紀</sup>	
同		同 <sup>牟婁</sup>	
七郡		同	
		室 <sup>國</sup>	
		牟婁 <sup>紀</sup>	
同		同	
同		同	
同		同 <sup>紀</sup>	
同	南牟婁	北牟婁	西牟婁
十郡			

〔牟山紀聞〕物の名

仲文集に紀の國の郡どもをよめる、いと伊都なか那賀なくさ名草ありた在田あま海部ひたか  
日高むろ牟漏

いとながき夜はなくさますあまりありたえずひたかんむろにすまばや

三十一字の中に、七郡十七字をかくしたるは、やすからぬ事なり、

〔宇野主水記〕十一月天正十一年十一月十八日御書ノ御日付也紀伊國奥郡湯川中務大輔直春此比御無音也、

伊都郡  
〔紀伊續風土記四十二〕總論

當郡は那賀郡の東にありて、東は大和國宇智吉野兩郡に界し、南は在田郡に接し、北は河内國錦  
部郡に界す、其廣袤東西六里、南北九里、伊都の義詳ならず、按ずるに、伊都は絲の義なるべし、本國  
に絲の縁ある事は、延喜式に、凡貢夏調絲云々、紀伊等十二國並上絲とあり、<sup>略</sup>中當郡の形勢を考  
ふるに、葛城峰北に連なり、長峯南に連なり、中間紀川東西に貫き流る、又東は大和の堺眞土山あ  
り、西は那賀の堺背山ありて、東西を塞ぎ、郡中即一谿谷の如し、村邑川に傍ひて、碁布し、又山巒谿